

(9) 音楽教育研究会

会長 森 和也 (東中筋中)
 副会長 山本 奈々枝 (中村中)
 事務局 谷中 佳子 (中村南小)

1. 研究主題

「聴こう 歌おう 深めよう」

2. 研究経過

実施年月日	研究のあらまし	会場	備考
5月8日(水)	四万十市教育研究大会組織総会 ・今年度役員選出 ・研究主題の決定、研究大会の授業者決定 ・活動計画の作成	中村南 小学校	組織作り
7月31日(水)	夏季研修会 「新学習指導要領で求められる授業」について 森 和也 (東中筋中学校 教頭)	中村中学校	参加者 19名
10月31日(木)	学習指導案検討会 11月13日研究大会当日の学習指導案	中村南 小学校	参加者 12名
11月13日(水)	四万十市教育研究大会 授業者 景平 京子 (中村南小学校) 助言者 森 和也 (東中筋中学校 教頭) ・研究討議 ・鑑賞の授業づくりのポイント	中村南 小学校	参加者 16名

3. 活動内容

四万十市音楽教育夏季研修会(7月31日「新学習指導要領で求められる授業」)について

○目的・及び学習課題・・・音楽科授業の実践力を高める

○日程・・・13:30～13:35 開会行事

13:35～16:30 講義・演習

16:30～16:40 質疑・応答、閉会行事

○感想より

- ・鑑賞において「知覚」と「感受」という用語とその意味が分かり、これらの関連が大事だということが理解できました。
- ・新学習指導要領について、趣旨理解・目的・内容を分かりやすく教えていただきました。旧学習指導要領とどこがどのように変わったのかよくわかりました。特に[共通事項]の扱い方がわかりやすかったです。
- ・鑑賞の学習ワークの例を示していただき、知覚・感受・知識という評価の観点が分かりやすく、今後の授業実践に活かしたいと思いました。
- ・自分たちも合唱をすることで、音楽は楽しいものだと思えることができました。

4. 令和元年四万十市教育研究大会

(1) 授業者より

- ・学習指導案の流れ通りに授業を行うことが課題である。子供たちのつぶやきや考えを活かした授業をしたい。
- ・楽器の音当てクイズは、はじめて知るウッドブロックという楽器を知った上で、本時の楽曲を鑑賞するために行った。
- ・ウッドブロックのリズムに注目し、四分音符4つのリズムと、リズムが詰まる「カッカ」の部分に手の動きとともに気づかせた。
- ・全員が授業に参加するために、ワークシートを用いて、あえて書くことをした。
- ・最後の部分は色々な楽器が出てくるためクラス全員が盛り上がると思っていたが、思っていたより盛り上がらなかった。どうすれば盛り上がったのか。
- ・三部構成（ABA）に気づいた児童もいたので、次回の授業でふれていきたい。
- ・教材との出会わせ方、楽器との出会わせ方、学習意欲を高める方法を知りたい。

(2) 参観者より

- ・楽器との出会わせ方について楽器の音を鳴らして聴かせる方法はいい方法だと思う。
- ・児童の気づきはたくさんでいたので、児童から出た意見1つで進むのではなく、いろいろな言葉を拾っていったらよかったのではないかな。
- ・「ゆかいな〇〇〇」と出したが、児童たちは教科書をすでに読んでいたため音楽を聴く前に答えがわかっていた。教科書を読んでいることが予想されていたなら他のやり方もあったのではないかな。例えば「とけい」がわかっているなら「ゆかいな」を隠し、どんな時計かを音楽を聴いて考えてもよかったのではないかな。
- ・児童から「とけい」とすぐに出たが、そこは慌てずに、「そう、今日は時計の音楽を聴くよ」「どんなところで時計を感じたか考えてみよう」など返すとよかったのではないかな。
- ・先生と児童の1対1の話が多かったのでペアやグループなどの活動があればさらによいと感じた。
- ・最後いろいろな楽器がでる場面ですしたら盛り上がったかについては、ウッドブロックやトライアングルの音に動きを付ける活動を何回も行ったり、めあてを「ゆかいなところを見つけよう」としたりすると最後の場面により反応したかもしれない。先生は盛り上がらなかったといていたが、プリントには最後の部分について多くの児童が触れていた。
- ・先生が意図していたことがわかっていない児童もいた。発問があいまいな部分があったので明確にするとよい。例えば「何に聞こえる？」「何みたいに聞こえる？」「じゃあそれを表してみようか」など、発問の工夫があるとよかった。
- ・児童たちが体を動かすことに集中してできていた。
- ・教科書を拡大したものを板書に貼ることは視覚支援としてよかった。
- ・書く時、聞く時、考える時をそれぞれ分けるとよかった。
- ・曲を三分割して聴いていたが、最初から最後まで聞き、自由に動いたり、大きな円になって鑑賞をすると、他のみんなの様子を見ながら動く活動も仕組みたのではないかな。
- ・ぼやきや気づきはどうかと思ったら気づけるかについては、ペアやグループなどの活動を取り入れれば、児童同士での話の中から見取ることができるのではないかな。また、「なんの音が聴こえる？」という発問に対して「ウッドブロック」だけでなく「バイオリン」といていた児童もいた。そこをウッドブロックだけに持っていくのではなく、「バイオリンの音が聴こえた人は手を挙げて」など共有できたらいいのではないかなと感じた。
- ・ウッドブロックの音に合わせて動く活動で、シンコペーションなどで音がずれることに気づきながら楽しんで音楽を聴いていた。

- ・楽器BOXには既習で習ったものもでてきていたのでよかった。
- ・動く活動が多かったので表情もよかった。プリントには様子や楽器など何を書いたらいいかまよう児童もいたのが気になった。

(3) 助言者より

- ・タイトルを見せる前に、まず曲を聴かせ「音楽からどんなことを想像したかを考えよう。」(感受)
例えば曲を聴いて…「こわい、追いかけられるような感じがする」→「この曲は魔王という曲なんだ」というように音楽を聴いて感じたこととタイトルを結び付ける。
- ・どんな音があるから(知覚)こう聴こえる(感受)
「どんな音がある?」→グリーンという音、ウッドブロックのリズム(知覚)→なんだか時計みたい(感受)
- ・音に反応する過程をよく見てほしい。指の動きだけでなく、ウッドブロックなどの楽器を使い、シンコペーションのこける愉快さに気づかせる。
- ・全体を聴く中での気づきがある。短い曲なのでまず曲想の全体像をとらえる。
- ・先生対生徒になりがちで、先生の発話量が多くなってしまっていた。児童同士の活動を多くし、そのために何をするための活動かを明確に伝える。
- ・1個1個の活動に変化をつける。例えば1回目は指で時計を表し、2回目は席を立てて活動、3回目はグループなど、活動を変える工夫があるとよい。
- ・低学年はどのように感じ取って聴いているかが重要なので、書くことよりいかに音楽を楽しんでいるかを中心に見てもらえたらいい。
- ・ワークシートの書かせ方や評価の仕方については、聴き取ったことと感じ取ったことを書くことができるワークシートになっているか。聴き取った音楽をどうしてそう感じたのか、知覚と感受を結び付ける。

5. 今年度の成果と課題

- 7月の夏季研修会では、新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業となるための具体的な内容について、授業をイメージしやすく学ばせていただくことで明日からの実践につながる研修となった。
- 森先生に1年間を通して学ぶことができ、本サークルの成果や課題についても共通認識して次年度につなげることができた。
- 実践を交えて大変楽しく学習することができました。
- 学習指導案検討会の後、兼松先生が事前の模擬授業をしてくださった。話し合いだけではなく実際に授業を見させていただくことができ、大変参考になった。
- 学習指導案検討会では、小学校の先生方の授業づくりを学ぶことができ、良い機会となった。
- 授業改善の視点が明確になり、研究授業を行うことは大変有用感があることである。
- 夏季研修で学習したことが研究授業に結び付き、これからの指導につなげることができる内容でよかった。来年度は実技講習も行ってもらえるとよい。
- 鑑賞の授業では、知覚感受の関係をしっかり指導者が抑え、意図的に聴き取ったこと、感じ取ったことを関連付けることをしていかなければ漠然とした授業になる。
- 新学習指導要領での授業実施のため、周知が現状から行くと十分でないこと、評価については3観点となったが、どのように評価していくのか周知する必要があるため、市教研で今後も学習会を開く必要があると思う。